

水管理のちょっとした工夫で、水田からの濁り水や肥料等の流出を防止しましょう！

島根県では、環境にやさしい米づくりを推進しています。

安全・安心なお米を作ることはもちろんですが、近くの河川や湖の環境を守ることも求められています。

これまで何げなく行ってきた水管理も、ちょっとした工夫をすることで水田からの濁り水や肥料等の流出を少なくすることができます。

みなさんも、以下のポイントを実践し、周囲の環境保全に貢献してみませんか。

「うち一軒がやっても大した違いはないだろう」と思われている方、そんなことはありません。一滴の雨粒が洪水を招くように、一枚の田からの流出量は微々たるものでも、下流ではかなりの量になります。

小さなことからひとつずつ、地域で取り組んでみてください。

畦塗り等による漏水防止

漏水の大半は畦際なので、畦塗り等により漏水を防止します。



浅水代かきによる落水量の低減

代かき前の入水量は、田面に「土が8割」「水が2割」見える状態を目安に行います。

(島根県出雲市斐川町での作業風景)



田植え前の落水量の低減

田植え前に水を溜めすぎて、強制的に落水してから田植えをするケースはありませんか？

田植え前のほ場の水は濁り、肥料成分を多く含んでいます。

ほ場の減水量を勘案しながら、自然減水で田植えに臨めるよう水の入れすぎに注意しましょう。



(写真：鳥取県中部総合事務所農林局資料より)

施肥田植機の利用（局所施肥）

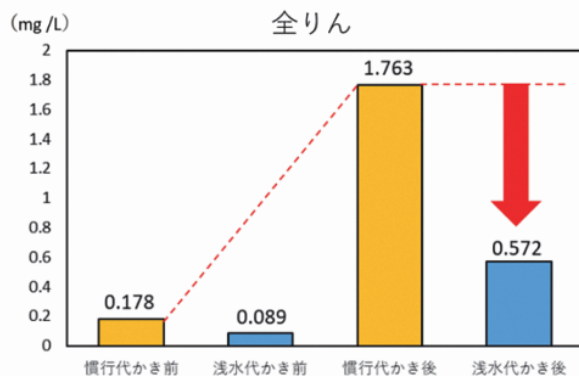
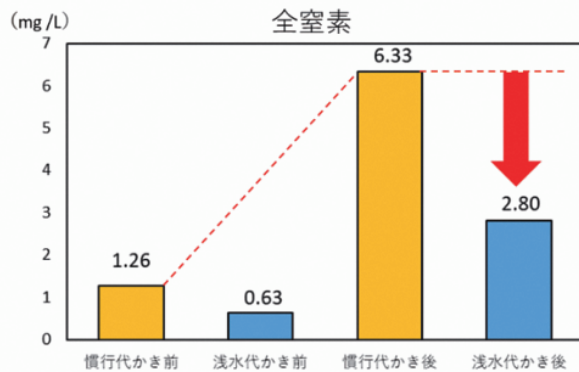
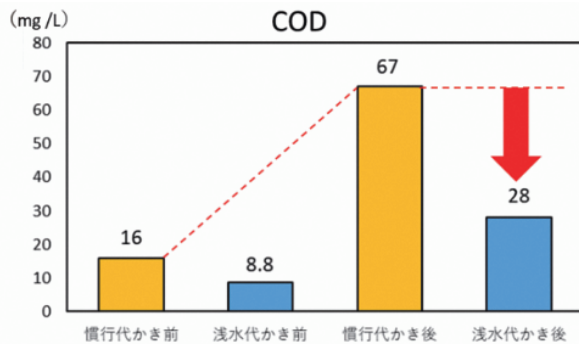
施肥田植機により土壌中に肥料を施用することにより、肥料の流亡を軽減できます。また、肥料効率が向上することから施肥量を削減することが可能となります。



緩効性肥料の施用

緩効性肥料は肥料効率が高いため、肥料成分の流出を軽減できます。施肥田植機の利用と組み合わせることにより、窒素等の肥料成分の流出防止が図られます。

○浅水代かきと落水防止で肥料成分の流出は少なくなります



代かき・田植後の田面水には、窒素、リン酸などの肥料成分が多く含まれています。

ほ場から濁り水が多く流出する時期は、代かき作業後と田植作業後の時期です。

このようにこの時の水管理が重要になります。

そのため、一般的な代かき（慣行代かき）を「浅水代かき」に変えた場合に、下流の水質がどの程度改善するか検証しました。

慣行代かきと浅水代かきの作業前後の田面水の水質を調査した結果、浅水代かき作業後の水田からの汚濁負荷量が半分以下に減少すると推計され、河川水質の改善効果が確認できました。

※COD、全窒素及び全りんともに、数値が大きくなるほど環境負荷が大きい

浅水代かきによる効果検証（令和5年4月 島根県出雲市斐川町で調査）

島根県環境生活部 環境政策課
宍道湖・中海対策推進室
TEL(0852)22-6445 FAX(0852)25-3830
E-mail : kankyo@pref.shimane.lg.jp

島根県農林水産部 産地支援課 有機係
TEL(0852)22-6477 FAX(0852)22-6036
島根県農林水産部 農山漁村振興課 農産振興係
TEL(0852)22-5129 FAX(0852)22-6043